いわて復興だより

がんばろう！岩手　つながろう！岩手

三陸復興

第 77 号
平成 26 年 12 月 15 日号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切にしていきたいと思います。

最低気温が氷点下の日も増え、道路や街のあちこちに雪が残るようになった今日この頃。

復興に向けて歩み続ける岩手の今を紹介します。

「おおつち鮭まつり」開催 鮭つかみどりに多くの歓声　大槌町

12 月 7 日（日）、南部新巻鮭発祥の地で知られる大槌町で「おおつち鮭まつり」が開かれ、多くの家族連れで賑わいました。

このまつりは大槌の冬の風物詩として例年行われていましたが、震災後は一時中断を余儀なくされ、昨年から復活したもの。

先着 100 人が参加できる、まつりの目玉「鮭つかみどり」には、早朝から長い列ができ、受付開始早々に参加が締め切られるという盛況ぶりでした。

参加者たちは 10 組に分かれ、軍手や胴長靴を借りて大槌川の浅瀬に設けられたいけすで、放流されたサケのつかみどりに挑戦。5 分間の制限時間内に、勢いよく泳ぎまわるサケを捕まえようと悪戦苦闘する中、子どもたちが大きなサケを捕まえると、観客からは歓声が上がり、会場は笑顔で包まれました。

また、会場となった大槌川河川敷では、地元産のサケで作った新巻鮭やイクラなどを販売するテントが設けられ、訪れた人たちが次々と買い求めていました。

今シーズンに川に戻ってくる秋サケは 4 歳魚が主流となるため、震災の影響で漁獲量の落ち込みが心配されていましたが、秋サケ定置網漁は、ほぼ昨年並みに推移しており、今後の漁獲量に期待が寄せられると同時に、地域の風物詩に復興への活気を感じる一日となりました。

「鮭つかみどり」を楽しむ親子

鮭をつかみ、笑顔を見せる参加者

人々で賑わう販売テント

「いわて復興インデックス報告書（第12回）」のデータから

沿岸被災 12 市町村を中心とした本県の復旧、復興の現状やその推移を把握するためのデータを定期的に取りまとめている「いわて復興インデックス報告書」。

今回は、第 12 回（平成 26 年 11 月 21 日公表）結果から、主なデータを紹介します。

なりわい（産業）　産地魚市場水揚量（平成 26 年 4 月～9 月）

産地魚市場水揚量（年度累計）
46,476 トン・70.1%（3 年平均比）

平成 20 年度から 22 年度までの 3 年間の同期間における産地魚市場水揚量の平均値の 70.1%、前年同期間比では 2.0%減となっている。

昨年低調であった棒受け網によるサンマの水揚量が回復した一方で、定置網によるサバ類の水揚量が大きく減少したことなどによるものと見られる。

安全　まちづくり（面整備）の進捗率（平成 26 年 9 月 30 日現在）

完成区画数 389 区画・進捗率 5%
＜平成 25 年 12 月末　完成区画数 96 区画・進捗率 1%＞

まちづくり（面整備）事業における宅地の完成区画数は 389 区画であり、宅地供給予定区画数 8,231 区画に対する進捗率は 5%となっている。

暮らし　災害公営住宅の進捗率（平成 26 年 9 月 30 日現在）

899 戸（県整備 290 戸、市町村整備 609 戸）・15%（進捗率）
＜平成 25 年 12 月末　323 戸：5%（進捗率）＞

災害公営住宅整備事業における完成戸数は 899 戸（県整備 290 戸、市町村整備 609 戸）となっており、建設予定戸数 5,946 戸（県整備 3,011 戸、市町村整備 2,935 戸）に対する進捗率は 15%（県整備 10%、市町村整備 21%）となっている。

いわて復興応援団（員）大募集中！

知って、買って、食べて、行って応援！

登録無料

首都圏等にお住まいの方を対象に、応援団員（個人）と応援団（法人及び団体）の登録を募集しています。登録者には岩手県の復興の取り組みや観光・物産・首都圏でのイベント情報などをお届けします。

詳しくは岩手県東京事務所ホームページをご覧ください。　いわて復興応援団　検索

内陸から被災地にエールを 釜石線「SL 銀河」と馬が並走 遠野市

11 月 22 日（土）、釜石線岩手二日町駅（遠野市）付近で、JR 東日本「SL 銀河」と遠野市の乗用馬が並走するイベントが行われました。

このイベントは、全国有数の馬産地として知られる遠野市の遠野市乗用馬生産組合や遠野郷馬っこ王国ライディングクラブ等が行ったもので、会場付近には多くの写真愛好家や観光客が訪れました。

当日は、吹き流しを手にした乗り手とともに 4 頭の乗用馬が、被災地の「し（四）あわせな年越し」を願い、農道およそ 800 メートルを SL と並走しました。

SL と乗用馬の並走は今年 2 回目。内陸から沿岸に向けて、復興へのエールを送るイベントとなりました。

「SL 銀河」と並走する乗用馬

千石船の復元船「気仙丸」大船渡湾で初の帆走 大船渡市

江戸時代の海運を支えた千石船（せんごくぶね）の復元船である「気仙丸」は、気仙地域の船大工グループ「気仙船匠（せんしょう）会」が 20 年余り前に建造したもので、東日本大震災津波にも無傷で耐えたことから、昨年 7 月、復興のシンボルにしようと、大船渡商工会議所、気仙船匠会、大船渡市ヨット協会を中心とした保全と活用のプロジェクトが発足。今回 11 月 23 日（日）に初の試験航行となりました。

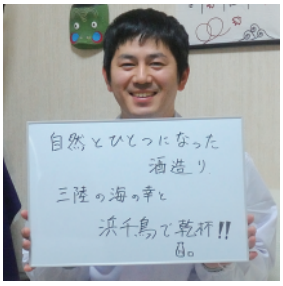
今回行われた試験航行は、大船渡湾の約 3.6 キロを、最大時速 6 ノット（10 キロ）で帆走。風を受けながら進む気仙丸は、新たな復興のシンボルとして市民を勇気づけました。

試験航行する「気仙丸」（写真提供：大船渡市在住 もりこ様）

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。
第 31 回目は、奥村 康太郎さんを紹介します。

未来のさんりくびと

株式会社浜千鳥
醸造部長・杜氏
奥村 康太郎
（おくむら こうたろう）さん



奥村さんからのひと言：
自然とひとつになった酒造り
三陸の海の幸と浜千鳥で乾杯 !!

PROFILE

埼玉県上尾市出身。
大学在学中、日本酒造りに興味を持ち、杜氏になることを決意。
南部杜氏の郷である岩手の酒蔵を巡り、釜石の地酒「浜千鳥」と出会う。
卒業後、平成 15 年に株式会社浜千鳥に入社。現在は、釜石市に在住し、浜千鳥の杜氏として活躍。

被災当時の支援に感謝

さらりとしていて、甘みが残るような口当たりで沿岸の地酒を代表する「浜千鳥」。

その酒造りをする蔵人の集団のまとめ役「杜氏」として活躍する奥村さんは、東日本大震災津波直後は、電気も重油もなく、お酒を絞ることもできず苦労した当時を振り返ります。

「浜千鳥は内陸に位置しているので、直接津波の被害はありませんでしたが、主な得意先である市内の飲食店や酒販店に被害があったので、どうしたらいいのかという状況でした。その状況の中、県外から多くの支援の注文を頂き、震災後 1 ヶ月で通常営業に戻ることができました。」と支援への感謝を語ります。

地域の物産で復興を加速

「自分は沿岸に住んでいるのではないので肌で感じる部分は少ないですが、ハード面はまだまだ時間がかかると思います。地域の若い人たちが、釜石を盛り立てて行こうという動きは、復興につながる一番大きな原動力になるのではないかと感じています。」と復興への印象を語ります。

「地元に根差した酒造メーカーであるということを念頭におき、県内外の多くの方に飲んで頂く、また、支援に来て頂いた方々にも、沿岸にはこういう地酒があるんだと、是非飲んで頂きたいと思っています。」と、観光に合わせ、沿岸の物産による復興への期待を寄せていました。

岩手県の被害状況　平成 26 年 11 月 30 日現在

▶人的被害　死者（直接死）：4,672 名　行方不明者：1,130 名
▶建物被害（住家のみ、全半壊）　25,716 棟

被害状況等の詳細
義援金・寄付金の募集等　いわて防災情報ポータル　検索

皆さんのご支援、ありがとうございます　平成 26 年 11 月 30 日現在

▶義援金受付状況　約 181 億 9,584 万円（90,312 件）
▶寄付金受付状況　約 196 億 944 万円（7,086 件）
▶いわての学び希望基金受付状況　約 70 億 6,619 万円（14,290 件）

※ 被災したこどもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富な【いわて復興だより Web】もご覧ください !!　http://iwate-fukkoudayori.com

いわて復興だより　第 77 号　平成 26 年 12 月 15 日号　企画・発行：岩手県復興局復興推進課　☎019-629-6925
いわて復興だよりバックナンバーは　いわて復興だより　検索
編集・印刷：シナプス